

甲 第 号

木村隆浩 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

論文審査担当者	委員長	教授	矢野 寿一
	委員	教授	岡田 俊
	委員(指導教員)	教授	北原 紘

主論文

Prognosis of asymptomatic endolymphatic hydrops in healthy volunteers: A five-year cohort study

健康なボランティアの無症候性内リンパ水腫の予後：5年のコホート研究

Takahiro Kimura, Tadashi Kitahara, Tadao Okayasu, Masaharu Sakagami, Tomoyuki

Shiozaki, Hiroshi Inui, Toshizo Koizumi, Mariko Kakudo.

Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2024 Nov 7;9(6):e70026.

論文審査の要旨

メニエール病の病態は内リンパ水腫とされている。内リンパ水腫を検出する方法として内耳造影 **MRI** が確立され可視化と分類が可能となったが、近年、無症候性水腫症例があることが報告された。本研究は、健康なボランティアを対象に、内耳造影 **MRI** を用いて追跡調査を実施し、無症候性内リンパ水腫の予後について検討した。

健康なボランティア 115 名のうち内耳造影 **MRI** 陽性の 8 名を対象とし、5 年間の追跡調査を行った。8 名は片側性の中等度水腫が認められ、5 年後に 4 名（50%）で消失し、4 名で持続した。持続例のうち 2 名（25%）がメニエール病を発症し、シェロング試験陽性率や自己評価うつ病尺度の得点が高く、自律神経失調や精神的苦痛を介してメニエール病が発症に関与することが示唆された。

公聴会では、メニエール病発症と **SDS** 高値との関係、自律神経失調以外の関与、内耳造影 **MRI** の数値での評価基準、予防法や治療法への応用などについて質問されたが、それぞれ適切に回答した。

本研究は、健常人の中に無症候性内リンパ水腫を示すものが存在することを明らかとし、内リンパ水腫がメニエール病の診断を確定するマーカーになり得ないことを示し、診療ガイドラインに大きな影響を与えるものである。以上から、本研究は耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学の発展に寄与するものであり、公聴会での質疑と合わせて学位授与に値すると判断する。

参 考 論 文

1. A study of 24 cases of salivary gland carcinoma with distant metastasis
Masui T, Uemura H, Ota I, Kimura T, Nishikawa D, Yamanaka T, Yane K, Kitahara T. Mol Clin Oncol. 2021 Sep;15(3):183.
2. Renal protective effect of a hydration supplemented with magnesium in patients receiving cisplatin for head and neck cancer
Kimura T, Ozawa T, Hanai N, Hirakawa H, Suzuki H, Hosoi H, Hasegawa Y. J Otolaryngol Head Neck Surg. 2018 Feb 2;47(1):10.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和7年3月4日

学位審査委員長

微生物学

教授 矢野 寿一

学位審査委員

精神医学行動神経科学

教授 岡田 俊

学位審査委員(指導教員)

耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学

教授 北原 紘